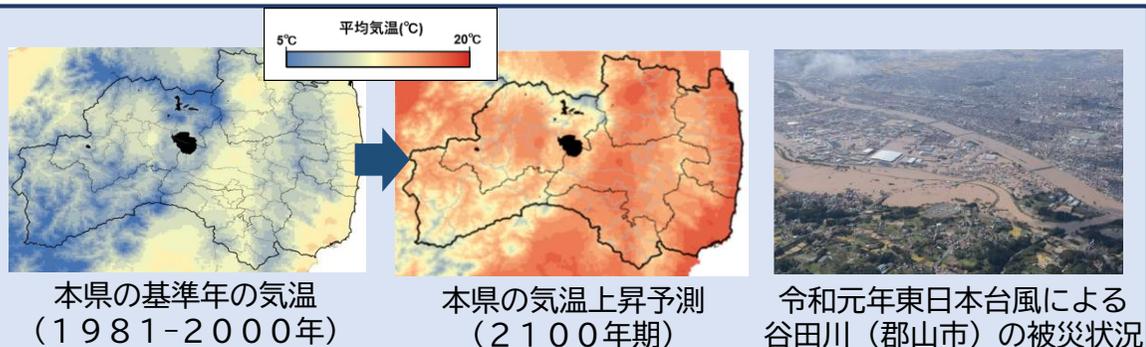


## 【現状と課題】

- 今後、温室効果ガスの削減努力がなされなければ、本県の平均気温は、2100年期には基準年と比較して約4.4℃上昇と予測。
- 自然災害の頻発化・激甚化、熱中症リスク上昇など、地球規模で起こる気候変動への対応は県民の暮らしにも直結する喫緊の課題。



- 2021年 2月 「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言
- 2021年12月 「福島県地球温暖化対策推進計画」の改定
- 2022年 5月 「福島県2050年カーボンニュートラルロードマップ」の公表

将来を担う子どもたちを始め、全ての県民にとって大切な福島の未来を明るいものとするため、2050年カーボンニュートラル実現に向けてオール福島での取組を更に推進していく必要がある。

県全体の新たな推進母体として、

2023年6月1日、ふくしまカーボンニュートラル実現会議（代表：知事）を設立



216団体  
 (福島県小学校長会、  
 福島県中学校長会、  
 福島県高等学校長協会、  
 福島県私学団体総連合会、  
 福島県PTA連合会、  
 各市町村教育委員会、  
 福島県教育委員会等を含む)  
 学識経験者5名が参加

## I 緩和策

## 1 省エネルギー対策の徹底

## 産業・民生業務部門

- ・既存建築物のZ E B化改修支援（生環）
- ・事業者向け省エネ機器導入支援（商労）
- ・環境保全型農業技術の導入促進（農林）
- ・道路、公園施設等の照明のL E D化（土木）
- ・省エネ相談窓口  
（県地球温暖化防止活動推進センター）等

## 運輸部門

- ・E Vの導入支援、エコタイヤの導入支援（生環）
- ・F C Vの導入支援、燃料電池バスの導入支援、  
水素ステーション整備支援（企調）
- ・カーボンニュートラルポートの形成（土木） 等

## 民生家庭・廃棄物部門

- ・Z E Hの購入支援、エシカル消費の推進、  
ごみ減量化、環境アプリの活用（生環）
- ・既存住宅の断熱改修（土木） 等

## 県有施設の取組

- ・新築Z E B（2施設）
- ・L E D照明の導入（設計：31施設、工事：27施設）
- ・公用車のE V導入（5台）
- ・県庁舎へのE V充電設備の整備（15基）
- ・太陽光発電設備の導入（設計：都市公園3施設） 等

## 新たな仕組みづくり

- ・福島県2050年カーボンニュートラルの実現に向け、事業者、県民等の理解を共感を得ながら一体となって取り組むことができるよう、各主体の責務や施策の基本的な事項などを盛り込んだ、**新たな条例（（仮称）福島県カーボンニュートラルの推進等に関する条例）制定に向けた検討開始**（2024年9月議会提案予定）。



## 2 再生可能エネルギーの最大限の活用

## 再エネの導入拡大・利用促進

- ・再エネポテンシャル調査、太陽光発電設備の導入支援、  
水素利活用の実証（企調） 等

## エネルギー・環境産業の育成・集積

- ・関連産業の立地促進に向けた支援、  
専門家派遣等による産業ネットワークづくり（商労） 等

## 3 二酸化炭素の吸収源対策の推進

## 森林による吸収源対策

- ・森林整備の推進（農林）
- ・県産木材の利用促進（土木） 等

## II 適応策

## 1 気候変動への適応の推進

## 気候変動の影響予測・対応

- ・県気候変動適応センターにおける情報収集・分析（生環）
- ・農作物の品種改良（農林） 等

## ① ふくしまゼロカーボン宣言事業 全校

学校が取り組む地球温暖化対策をセルフチェック（宣言）



今年度は節電・節水、食ロス削減、ごみ分別など12項目を設定

## ② ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度 全校

県内のモデル的な地球温暖化対策の取組を行う学校を表彰



## ③ 森林（もり）から学ぶエコ活動事業 幼稚園・保育園

木工工作などを通じて森林の重要性や環境への意識を醸成



## ④ 環境活動スタート事業 小学校・中学校・高等学校

地球温暖化対策の教育の導入として学校に講師を派遣



## ⑤ うつくしまCOOLサポーター養成研修会 主に大学生

地球温暖化防止活動を行う若い世代（大学生）を養成



## ⑥ 環境創造センター交流棟「コミュタン福島」

本県の復興・再生や脱炭素社会に向けた取組を体験しながら学習



# 福島県における温室効果ガス排出量の削減目標値及び実績値

福島県2050年カーボンニュートラルロードマップ



(千t-CO<sub>2</sub>)

年度	実績										目標		
	1990	2005	2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2030	2040	2050
総排出量	14,569	19,310	18,703	18,182	17,498	17,723	17,530	16,805	16,505	15,126	9,842	5,589	1,300
森林等吸収量	-	-	1,669	1,743	1,336	1,311	758	1,290	1,442	1,728	1,294	1,297	1,300
実排出量	-	-	17,034	16,439	16,162	16,412	16,771	15,515	15,063	13,398	8,548	4,292	0
基準年度比削減率(%)	-	-	-	▲3.5%	▲5.1%	▲3.7%	▲1.5%	▲8.9%	▲11.6%	▲21.3%	▲50%	▲75%	▲100%